

学校だより 第 3 号

ほんごう

令和 5年 9月 15日

横浜市立本郷特別支援学校

校長 中嶋 浩一



<学校教育目標>

家庭、地域、社会で豊かな生活ができるように

☆わかって動ける力 ☆適切なコミュニケーション力 ☆心身ともに健康・安全に生活する力を身につけます。

平和への視点～スピーチコンテストから

校長 中嶋 浩一

横浜市では「よこはま子ども国際平和プログラム」という事業を行っています。これは横浜市内の児童生徒の国際平和に対する意識を高め、国際社会で自分たちのできることを実践しようとするグローバル人材を育成するという目的で、国際理解教室と並ぶ、横浜市の国際理解教育の柱となる取組です。私の記憶としてはもう30年以上前から（以前は「国際平和フェスティバル」と言っていたと思いますが）継続的に行われてきているものと認識しています。その事業の中心とも言える「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」が7月下旬開催されました。今年度は「国際平和のために、自分がやりたいこと」というテーマで、児童生徒一人ひとりが自分の考えを自分の言葉で表現しました。各区から小・中学校1名ずつ選出された代表の児童生徒が集い、外の暑さに負けない熱い思いを会場に響かせてくれました。今回、私は特別支援学校校長会の立場からこの大会（中学校の部）にかかわらせていただきましたが、代表生徒さんたちの熱い思いや考え方、堂々とした姿勢にまさに圧倒される思いでした。

国際平和を考える視点や切り口は各自それぞれで、SDGsと関連付けながら、自分の海外での経験や修学旅行での体験、日常の取組、将来の夢、ジェンダーなど、中学生らしい柔軟でフレッシュな発想は驚くばかりでした。そして、その中で、障害のある人とのかかわりやその経験などからスピーチを組み立てている生徒さんも何人かいました。聴覚障害のお母さんとの生活から、ハンデのある人にも暮らしやすい社会を望むというスピーチ。学校での経験から挨拶の大切さに気付き、挨拶から始まるつながりを広げたいというスピーチ。さらには、自分にも肌の病気があり差別・偏見を感じながら、一方で自閉症の友達を遠ざけてしまった経験から考えたことを伝えてくれたスピーチ。どのスピーチも、お互いに近づいて分かり合うこと、多様な人々がいっしょに生きていけること、難しさはあっても自分たちでそうした社会を作っていくことなどを、それぞれの言葉で堂々と語ってくれました。若い人たちのこうした視点や考え方、熱意が次の世代の社会につながっていくことを強く望みたいところです。また、「お互いに」という視点も大切で、ほんごうの子どもたちもこの輪の中に入って、自分の個性を輝かせて、みんないっしょに社会を作っていくって欲しいと思います。「誰かの普通に飲み込まれるのではなく、それぞれの普通が共存するようになればなるほど、社会はより新しくなっていく」。スピーチにあった中学生の言葉に大きく拍手を送りたい思いです。

中期学校経営方針の紹介

本校の中期学校経営方針の具体的取組について、ご説明いたします。今年度も後期に実施する「学校教育活動アンケート」へのご協力をお願いします。

確かな学力	①定期的に実施するカリマネ会議において、児童生徒の実態や特性、段階等を踏まえ、観点別に立てた目標を振り返る、授業改善を行う。②学習活動の充実を図るため、実態に応じた指導内容を検討する。指導案や活用シートにタブレット端末の活用を明記し、実践事例を共有するとともに、ICT 活用に関する研修の企画、運営を行う。
担当	

教育課程推進部、
教育研究部

- ①カリマネ会議では、学年や学部ごとに、単元や授業の振り返りや評価を行い、次の単元計画や次年度の年間指導計画の改善に努めています。指導案には観点別の目標を記入し、育成したい力が身についたかどうかを検討しています。今年度より、進路支援部と協力し、キャリアパスポートを導入し、行事を中心に児童生徒が自ら活動の振り返りができるように取り組んでいます。
- ②「情報活用能力を育むには～ICT の効果的な活用～」をテーマとして、授業を限定せず、導入部分や学習の振り返り等に ICT 機器を使って児童生徒の情報活用能力を育む研究をしました。外部講師を招いたり、授業を録画したりして各教職員がどのように情報活用能力を育もうとしているのか、意見交換や情報共有をしました。また、各教職員が作成した教材を実際に見て、工夫点や良い点を共有し合い、日々の生活や授業で活用してより良い指導が行われるよう、「教材を見合う研修」を実施しました。



情報活用能力についての研修



ICT 機器・タブレット端末を活用した学習



教材を見合う研修

交流教育	①小学部と中学部において副学籍交流が円滑にすすむよう、取りまとめを行っていく。②学校間交流がより実りのある内容となるよう各学部、相手校と連携し、計画的・継続的な取組となるよう協議しながらすすめていく。
担当	

人権・交流教育部

- ①【副学籍交流】横浜市立特別支援学校の小・中学部児童生徒は、居住地の小学校や中学校に行き一緒に学習することができます。授業や行事などに参加して交流することで、地域社会との距離がより近いものとなることをめざしています。今年度は、小学部中学部合わせて21名の交流希望がありました。
- ②【学校間交流】近隣の学校との交流をしています。小学部の2～6年生は本郷台小学校の2～6年生、本郷小学校個別支援学級と交流しています。本郷台小学校は本校に来て一緒にゲーム等を通してふれあいます。高学年は、本郷台小学校児童が考えてくれた活動を行い、交流を深めます。本郷小学校個別支援学級と本校で学年ごと今年度から ICT 機器を活用してオンラインで交流を行います。中学部は本郷中学校と交流を計画しています。連絡を取り合いながら集会や行事などを一緒に行います。高等部は、横浜栄高校との交流を進めています。例年、本校でチアダンス部の素敵なパフォーマンスを見せてもらったり、一緒に踊ったりしています。

学校間交流の交流校紹介	
小学部	・ ○本郷小学校個別支援学級 ・ ○本郷台小学校
中学部	・ ○本郷中学校
高等部	・ ○栄高等学校



作品交流



中学部と本郷中との集会
(コロナ以前の様子)

健やかな体		①一人ひとりの子どもの実態に合わせた「体力づくり」に取り組む。②健康状態の把握に努め、感染症等の予防や拡大防止に取り組む。③給食だよりやぱくぱく通信、献立表で健康に良い食事や食育についての情報提供をし、食育にかかわる行事を行い、その取組の様子を伝える。
担当	体育指導部、保健部、給食部	

- ①今年度も新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、体力の向上を目指し、児童・生徒の実態に合わせて時間や距離を設定しての歩行やランニング等の有酸素運動を継続的に取り組んでいます。また、転倒等による怪我の予防を目的とし、安定した歩行や走行を身につけるために、各種機材や体育館等の施設を用途に合わせて使い分け、筋力の保持増進を目指した様々な運動に取り組んでいます。
- ②様々な感染症に関して、予防や拡大防止に引き続き取り組みます。職員向けに実技等を含めた嘔吐物処理研修の実施、「手洗いプロジェクト」を通しての手洗いの励行を行います。また熱中症予防のための取組としては、運動指針の判断基準の掲示、給食時に屋外のコンディション放送を行い、注意、呼びかけに努めています。
- ③給食だよりやぱくぱく通信、献立表を通して、食にかかわる行事や給食の様子、健康を保つ食事や栄養等の情報を紹介しています。また今年度も食育の一環として、食材体験、校内産物の利用、図書部との連携行事に取り組んでいます。



R4 持久走の様子



R5 水泳学習の様子



青星寮カレーについての
メッセージ動画

安全管理		①防災計画に基づき避難訓練等を実施する。引き取り訓練において必要な情報を精査し書式を整える。また、計画に基づいて災害時用物資の管理等を行う。 ②日頃から安全意識を高め、全教員の共通理解のもと、連携を図りながら各自が様々な状況の中で適切な行動に結びつけられるようにする。
担当	防災安全・生徒安全部	

- ①防災計画を策定し、年間を通じて避難訓練（火事・地震）を計画・実施します。訓練を繰り返し実施することで、非常時に迅速に避難できる力を育てます。緊急時下校訓練（引き取り下校訓練）を行うことで、教員と保護者で、緊急時の子どもの引き渡し方を確認しました。また、備蓄倉庫にある災害時用物資を定期的に入れ替え管理しています。
- ②不明児童生徒が出たことを想定した搜索訓練を行いました。全校搜索体制に基づいて本部、搜索班を組織し、関係機関や家庭と連携して迅速かつスムーズな搜索ができるよう訓練に取り組みました。また、不審者侵入時対応研修会及び不審者侵入時避難誘導訓練を行い、児童生徒の安全確保を最優先に、組織的な対応により不審者を誘導する方法を学びました。



不審者侵入時対応研修の様子



9月1日の総合防災訓練の様子・負傷者救助訓練をしています。



いじめへの対応		①毎月「いじめ防止対策委員会」を開催し、いじめの未然防止、早期発見と早期対応、適切な対処や措置にあたる。必要であれば警察などの関係機関とも連携する。②子どもの人権を守る、権利を尊重する観点から、研修に取り組み、教職員の人権意識向上を図っていく。
担当	いじめ防止対策委員会	

- ①「いじめ防止対策委員会」は、校長、副校長、教務部長、人権・交流教育部長、学部長、学年リーダー、養護教諭、特別支援教育コーディネーターで構成し、毎月、いじめに関する情報を収集、共有を行い、市教育委員会にも報告し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努めています。
- ②いじめは、「最も身近な人権侵害」という基本に立ち、教職員一人ひとりが自分自身と向き合う人権啓発研修を進め、人権感覚・人権意識の向上を図っています。そして、研修の成果を、「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校につなげます。

R5 神知研講演より
「教室
マルチリートメント」
(川上 康則)

笑顔と 機嫌のよさ をキープできる
大人がいつもそこにいること

- 大人の顔色をうかがわなくて済む
- 「今のままで大丈夫」と肯定されている
気持ちになれる
- 学校が「気持ちよく過ごせる場」になる

いじめ・体罰・不祥事防止研修(職員室にて)



◎グレーゾーンにも目を向ける **「教室マルチリートメント」**

体罰
 わいせつ
 行為

信頼関係のない、
 心理的虐待やネグレクト
 に類似した振舞

「安全基地」と
 なれる教師の存在

教室に「尖った不穏
 な風」が流れている
 のでは？

- 「指導」という名のもとに半ば黙認・看過されてきた部分
- 「常に隣り合わせ」という認識に立つ必要がある
- 大人側がそれほど深刻なものと考えていなくても、子供の心にトラウマを残す可能性があることに目を向ける
- 言語化・可視化されることで、日常を見直すという視点に立てる
- 職員室と教室はつながっている。職員室内の会話から改めていく

地域連携		①地域主催のイベントでの作品販売や屋上プール開放などを通して、本校の児童生徒の学習活動や様子について地域へ発信する。②学校施設開放利用団体の公平性を保ち、本校卒業生を含めた余暇活動に貢献する。
担当	地域支援部	

- ①地域支援部では、近隣地域の主催イベント（SAKAE ヤングフェスティバル、小菅ヶ谷夏祭り、ステーションまつり）に参加しています。中学部、高等部の作業班で制作した商品の販売を通して、児童生徒の学習活動や様子について地域に向けて発信しています。また、今年度より屋上プールの開放も再開しました。夏の余暇活動を通して、少しずつ本校の様子を知っていただく良い機会にしていきます。
- ②平日の17時以降と土日に本校の体育館とグラウンドを登録団体に貸し出し、地域住民の健康促進に貢献しています。現在大きく分けて、「地域の文化スポーツ団体（サッカークラブやバレーボールクラブなど13団体）」と「卒業生を主とした団体（バスケットボールクラブやランニングクラブなど3団体）」が使用しています。



SAKAE ヤング フェスティバルに出店



小菅ヶ谷夏祭りに出店



(栄区)ステーションまつりに出店

人材育成・組織運営(働き方)		①メンター研修の自律的取組や年次研取組を継続し、専門性の向上を図る。②グループウェア会議や ICT 機器を活用した会議を行い、時間短縮を図りながら、効率的な組織運営を目指す。
担当	教務部	

- ①初任、2年目、3年目の職員を中心にメンターチームを作り、専門性を高めるために年7回の研修をしています。メンター研修とは様々な職員から助言や指導を受ける研修であり、参加者自ら企画、運営する研修として大切にしています。また、今年度より全ての研究授業をビデオ録画し、放課後等の時間にタブレット端末でお互いの授業を見合うことができるようにしました。録画場面を区切りながら見ることで、協議会や反省会で具体的に評価・検証できるようしています。
- ②職員がPC上でのグループウェアの活用や分散型のオンライン会議を開催することで、業務の効率化を図り、教材研究や児童生徒理解のための時間を確保しています。事前にアップされた会議・研修資料を職員が各自で確認し、当日は効率的に協議が進むよう工夫しています。分業を明確にし、複数の会議を同時開催できるようにし、会議日数を減らしています。その分を授業準備や教材研究、生徒理解のための時間とし有効活用し、働き方改革を進めています。

センター的機能の取組		①地域の小中学校等への訪問支援や研修協力等、学校支援の充実を図る。また、特別支援教育の専門性を広め、深める役割を果たしていく。②地域の関係諸機関との連携を通して、地域における障害児者理解促進や日常生活における充実性の向上に寄与する。
担当	特別支援教育コーディネーター	

- ①本校では、栄区、戸塚区、泉区の小中学校を中心に学校支援（コンサルテーション、研修会講師など）を行っています。訪問相談以外にも、電話での相談や出前授業など様々な形で、「子どもたちのより良い支援環境を整えるにはどうすればよいか」について、地域の小中学校の先生方と一緒に考えてきました。その他、個別支援学級の先生方の研究会や児童生徒指導専任の先生方の連絡会、コーディネーター協議会などに参加し、日頃より連携を取りやすい体制を整えています。
- ②上記以外にも、栄区、戸塚区、泉区の自立支援協議会関連の会議、移動情報センター推進会議などに多く参加し、常日頃より情報交換や情報収集を行っています。市立特別支援学校や県立養護学校のコーディネーター連絡会などにも参加し、情報を常に収集して地域における障害児者理解促進に少しでも貢献できるようにしています。

地域学校協働活動		①学校周辺地域の方に本校への理解を深めていただくための情報発信を行うとともに、積極的に学校ホームページを活用していく。②学校運営協議会の委員による授業や行事の参観の機会を設け、学校関係者評価としての助言をいただき、より良い学校づくりに取り組んでいく。
担当	学校運営協議会事務局	

- ①正門横の掲示スペースを活用して、学校だよりやポスターなどを掲示しています。学校だよりは近隣のお宅に伺い、直接配付させていただいています。また、本校のホームページでは随時、行事や各授業（食育や体育など）、教職員研修などの様子について発信しています。
- ②年4回の学校運営協議会において、授業の参観はもちろんのこと、給食、下校など日常の様子や行事（ほんごう祭）の見学、学校の施設環境などの確認をしていただいています。今年度は、ウィズ・コロナにおける地域と学校の新たな連携・協働をテーマに、ご意見や助言をいただいています。



正門横の掲示スペース



学校ホームページに学習活動や職員研修を随時紹介しています。

11月、12月の予定

(9/15現在の予定です。今後変更になる場合があります。)



1	水	ここカラ相談室
2	木	特別体重測定
3	金	文化の日
4	土	
5	日	
6	月	高短A
7	火	
8	水	登校指導
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	短A ほんごう祭(小4・5・6 ステージ発表)
14	火	短A (小1・2・3 ステージ発表)
15	水	短A (高1・2・3 ステージ発表)
16	木	短A (中1・2・3 ステージ発表)
17	金	短A ↓(中高作業班での販売・全校買い物活動)
18	土	
19	日	
20	月	
21	火	
22	水	ここカラ相談室
23	木	勤労感謝の日
24	金	
25	土	
26	日	
27	月	後期個人面談(希望者~12/8)
28	火	
29	水	
30	木	小5 宿泊学習(~12/1)

1	金	
2	土	
3	日	
4	月	高短A 登校指導
5	火	
6	水	避難訓練(時刻非公開)
7	木	高等部前期選抜日(高等部休業日)
8	金	高短A(入学選考会議)
9	土	
10	日	
11	月	
12	火	登校指導
13	水	ここカラ相談室
14	木	中3 修学旅行 高等部前期選抜合格発表
15	金	↓
16	土	
17	日	
18	月	登校指導 体脂肪率測定
19	火	
20	水	大掃除
21	木	短A
22	金	短A 給食終了
23	土	
24	日	
25	月	短B
26	火	冬季休業(~1/6)
27	水	閉庁期間
28	木	閉庁期間
29	金	休庁日
30	土	休庁日
31	日	休庁日(~1/3)

※今年度のほんごう祭の詳細につきましては、
後日配布するお知らせにてご確認ください。

学校 Web ページ QR コード→

(行事や授業、研修の様子を
掲載しております。)

